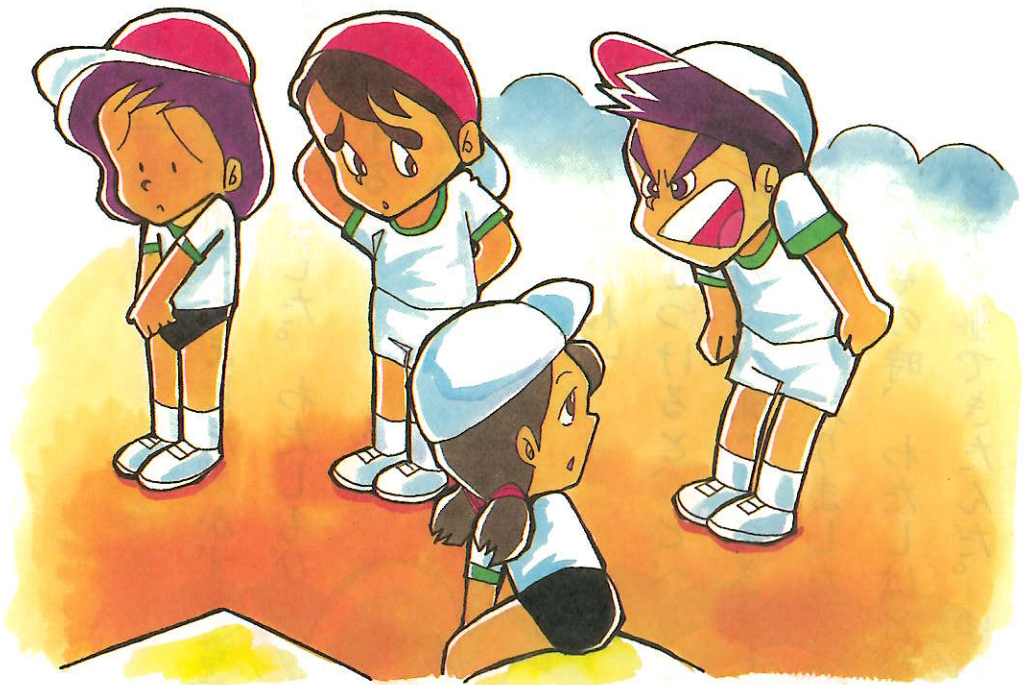


## とびばこ

わたしは、体育があまり好きではありません。

なぜかという、走るのもあまり速くないし、とびばこや鉄ぼうや一りん車など、ほかの友だちができるのに、わたしだけなかなかできないのです。それに、みんなからわられるのが、なによりもくやしくていやだからです。

きょうの体育は、とびばこです。じゅんぴ体そうをして、みんな、とびばこの用意を始めました。



わたしは、もう、にげ出してしまいたい気持ちでいっぱいです。用意ができました。ゆうーろろ君から、次々とび始めました。いよいよわたしの番です。とんでみると、やっぱりいっぱいでした。二回目もしっぱいしてしまいました。

三回目は、友だちのとび方を見て、さつきとちがうとび方をしてみました。だけど、やっぱりとべませんでした。何回とんでも、おしりがとびばこの角に当たってしまいます。

はじめは小さく聞こえていたわらい声が、どんどん大きく聞こえてきました。  
その時、

「わらうな。」

と、大きな声が聞こえました。かずま君です。体育かんが、一しゅん、シーンと  
しずまりかえりました。わたしもびつくりしました。

しばらくすると、

「わらってごめん。」

とか、

「がんばれ、がんばれ。」

「もっといきおいをつけると、とべるよ。」

とかいう、みんなの声が聞こえてきました。

わたしは、おもいきり走りました。そして、手を強くつきました。からだが高  
くういたと思ったその時、わたしはとび箱をこえていました。

やったあ、とうとうできたんだ。ゆめじゃないんだ、とべたんだ。わたしは、

とてもしんじられませ  
んでした。

みんなのはく手が聞  
こえてきました。

